

疾患名

抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）型急速進行性糸球体腎炎

病気について

腎臓の糸球体の基底膜に対する抗体（抗GBM抗体）が腎臓の糸球体に激しい炎症を引き起こし、週単位で急速に腎機能が悪化する病気です。治療開始が遅れると腎機能は回復せずに維持透析になります。また抗GBM抗体は肺の基底膜を攻撃し肺出血を合併することもあり（グッドパスチャー症候群）、命にも関わる事もあります。自覚症状は、全身倦怠感や微熱などで、特徴的な症状はありません。

治療について

副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬、抗GBM抗体除去のための血漿交換療法を行います。血漿交換療法はこの病気が疑われた時点で早期に開始します。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェレシス治療の種類：血漿交換、二重濾過血漿分離交換

回数：1クール（2週間に限る）につき7回、一連につき2クールを限度として行います。